

(様式2)

平成 29 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600369		
法人名	社会福祉法人いじみの福祉会		
事業所名	グループホーム陽だまり苑(川東ユニット)		
所在地	新潟県新発田市岡田1746番地1		
自己評価作成日	平成 30年 1月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年2月24日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・木造平屋造りで広く、自由に動ける空間を有していることで、車椅子でも自立して生活が送れています。また、当敷地内には特養が併設されており、支援体制も整っているため、心身状態が低下しても可能な限りグループホームで生活が送れるなど、利用者や家族の安心に繋がっています。

・利用者と家族、そして職員の絆を大切にしており、定期的に自宅に帰れる支援をする等、家族と共に過ごす時間を大切に支援しています。夏には七夕会、冬にはクリスマス会を開催して家族と一緒に楽しんでいただいています。

・苑の中庭の一面に畑を作り、利用者と職員と一緒に収穫して、採れた野菜を食卓にのせて楽しんでいただいています。

・利用者が快適にかつ安全に日常生活が送れるよう、日々環境整備に取り組んでいます。

・感染症の時期には、勉強会を開いて、シュミレーションを行い対応を学んだり、日常業務の中でも利用者が触る手摺、椅子の肘掛、トイレの便座など、毎日次亜塩素酸ナトリウムで拭き、又、利用者や家族、来苑者には、外出時や来苑時にマスクの着用や手洗いうがいを行って頂き、感染予防に理解と協力を頂いています。

・毎年、地域の川東文化交流展に利用者の作品を出展したり、菊水酒造様主催の植花夢コンテストに花を育て、参加させて頂き、地域の方との交流を深めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に法人が運営する特別養護老人ホームと通所介護サービス事業所が開設されていることから、日常的に協力体制が整っており、安定した運営行われている。グループホーム内は全体に広く、ユニットごとにベランダや中庭が造られており、利用者は季節を感じながら過ごすことが出来る。室内の観葉植物や玄関の植栽等の緑も多く、季節ごとのガーデニングや畑での野菜作りが行われており、毎年花作りはコンテストに応募するなど、利用者・職員の大きなイベントになっている。

職員は利用者の喜びや意欲のある暮らしを实际化するために常に利用者に向き合い声を聴いて、できる事の引き出しを増やしたり、やりたい事の継続ができるようにアイデアを出し合いながら取り組んでいる。事業所内に飾られている利用者と職員とが作り上げた作品はとても素晴らしく、和気あいあいと一緒に取り組んでいる様子が伝わるものであった。

運営推進会議を活用した地域との交流も少しずつ拡大しており、災害時の協力体制も築かれ地域行事への参加も増えている。地域行事への参加を通じて事業所の取り組みや、利用者が地域で暮らし続けることの地域密着型サービスとしての位置づけも広がってきており、今後は認知症介護の相談窓口や拠点として活躍が期待できる事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が自分の力を発揮して、日々の生活に張り合いや喜びを感じて暮らせるよう理念を掲げて、その実践に向けて管理者と職員は理念を共有し、方向性を統一しながら取り組んでいる。	開設時に職員で作上げた理念を毎年振り返る機会を持ち、その結果、「利用者が喜びと意欲を持ち続けられる暮らし」を支援することが事業所の目指す方向であるとの共通認識で、継続した理念を掲げており、利用者や毛筆で書いた「理念」を食堂やホールに掲示し、来訪者や家族等にも公表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年11月に開催される川東文化交流展に作品を出展し見学したり盆踊り大会や、火渡り修行など地域行事に参加して、地域の人々とのつきあいを大切にしている。	集落から離れた場所にあるため、日常的な付き合いができるまでには至っていないが、事業所の広報誌を集落ごとに回覧してもらったり、近所の方から野菜を届けてもらうなどの付き合いができてい。年々地域行事に参加する機会やボランティアに来る方が増えており、参加を通じて地域の人との交流が拡大して行くように努めている。	利用者が意欲を持って生活する暮らしの場を事業所内で完結するのではなく、地域の中での暮らし続けることを支援するために、より一層職員間でアイデアを出し合いながら実践して行くことを期待したい。また、事業所自体が地域の一員として暮らす基盤づくりに向けて、まずは職員から地域活動に参加して行くことを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月ホームだよりを地域の回覧板に回して頂き、利用者の生活ぶりや活動を紹介すると共に、地域の人々に認知症への理解や支援についてなど役立てて頂けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の活動やサービスの評価、取組み状況を報告し、話し合いを行っている。会議では、様々貴重な意見や情報を頂いており、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者、家族、自治会の会長と副会長、地域包括支援センター職員族の参加を得て実施している。場所を両ユニット間のダイニングで行うことで日常の利用者の様子を感じてもらい、また、2回の内1回は利用者と一緒に食事を摂って感想や気づきを共有できる機会にもなっている。会議では運営状況や利用者の状況、外部評価の結果報告等の他、地域行事の案内や地域情報の交換、災害に関する取り組み等を議題に検討している。	運営推進会議は、地域の人が事業所に来て外部の目を通して事業所の取り組み状況や改善点を話し合う貴重な機会である。この会議をさらに活用して、今後はより地域住民や子どもたちが来るきっかけ作りとなることを期待したい。また、会議内容は参加家族以外の家族にも、報告することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、研修や集団指導などで顔を合わせる機会も増えて話しやすい関係が築けている。また介護相談員も定期的に来苑し意見交換を行ってサービスに活かしている。	市の担当者からはメール等を通じて情報を得ているほか、制度等の問い合わせは気軽に言うことが出来ている。地域包括支援センター主催の研修会等に参加することで、担当者との顔の見える関係が築かれており、より相談しやすい状況になっている。また、市の介護相談員は利用者顔なじみの関係ができており、率直な意見等も相談員を通じて市の担当者と事業所で共有することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束しないケアの実践に向けて研修に参加したり、職員会議で勉強会を行って正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	利用者の自由な暮らしを、安全性を確保しながら実践しており、職員は身体拘束の弊害を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年に1回は事業所内研修を実施し、どのような行為が身体拘束にあたるのかを改めて振り返り、全職員が統一した意識のもとでケアを実践するように努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、職員会議で高齢者虐待防止について勉強会を行い、職員全員が同じ認識のもとで、虐待の防止に努めている。	年1回の事業所内会議の中で、虐待防止関連法について確認する機会を確保している。また、ニュース等で介護施設における虐待が報じられた時には職員で話題に上げて話し合っている。管理者は職員の状態を常に把握しており、いつもと違う様子が出た時には声をかけて話を聞くなど、職員がストレスを抱え込まないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度を学ぶ機会として、成年後見制度について職員会議で勉強会を開いて、個々の必要性に応じ、活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、利用者、家族の不安や疑問に対し、十分な説明を行い、ホームの運営方針や支援のあり方に理解、納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族等の意見や要望には耳を傾け、支援に活かすように努めている。家族来苑時には、日頃の様子を伝えながら、話しやすい関係作りに努めている。夏にはミニ家族会を開催し、率直な意見をいただくなど話し合いの機会を設けている。	家族には面会時に要望や意見を申し出て欲しいことを丁寧に説明して、話し易い雰囲気づくりに努めている。面会が遠く家族については随時電話等で確認している。また、面会に来た家族はホールで利用者と一緒に過ごすことが多く、普段の様子を見てもらいながら気軽に職員と話せる関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議の場で意見交換を行い、職員からの意見や提案を聞いたり、日頃からも話し合いの場を持ち運営に反映させている。	毎月開催する事業所会議では、利用者に関する検討事項が多いが、普段から職員間では話し易い職場環境づくりが実践されており、活発に意見交換ができています。苑長の下に位置する相談役は半年ごとに職員の目標管理の自己評価を通じて個々の意見を聞く機会を持っており、たまに事業所を訪問して日常の中で職員から話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の働きぶりを把握するとともに、半年に一度の自己評価を通し、各自仕事への見直しや新たな目標により、向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、新人研修や全職員を対象とした研修を実施し、また、法人外の研修への参加など全職員が学ぶ機会を確保している。また、個人の力量を把握し「良い習慣作り」シートを活用して、人としても成長できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは必要時連絡を取り合い情報交換を行ったり、研修や市の集団指導などでお互いの取り組みや問題点、課題点など話し合う機会となっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談時に、本人、家族から話をよく聞き、困っていること、また希望していることなどを把握し、本人が安心して生活できるよう、積極的に関わるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談時や入所後も家族等の背景や抱えている問題、不安な事、また希望や要望など、よく話を聞き、ホームでの支援等について話し合いながら、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや相談員からの情報、また面談を通じて、本人や家族がまず必要としている支援の見極めを行い、初期対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と多くの時間を共有し、喜怒哀楽を共にして、絆を深めながら暮らしており、互いに学び合い、支え合う者同士の関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしており、家族参加の行事の開催、外出レクリエーションを企画する等、又、希望に応じて外出、外泊して頂ける様支援し、共に過ごす時間を多く持てる様努めている。又、毎月広報を発行したり、ミニ家族会を催す事で、本人の生活ぶりについて情報を共有し、支援の在り方など、様々相談しながら共に本人を支える関係を築いている。	家族と利用者の絆を大事にしながら、家族でなければ分からない利用者の思いを代弁してもらったり、職員が対応できない個別の外出や外食など、利用者の思いを実現するために多くの協力を得て利用者の暮らしを一緒に支援している。家族が参加する七夕会やクリスマス会等では、利用者が見せる笑顔や普段よりさらに意欲的になる状況などから、家族と事業所の協働の必要性を実感して大事に関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来苑時には、温かく出迎え、居心地良く過ごしていただく配慮を行っている。電話でのやり取りなどを支援して、今まで本人が大切にしてきたものが途切れないよう努めている。	これまで利用していたデイサービスへの訪問や施設に入所している友人への面会を支援している。また、家族の協力も得ながら、通い慣れた美容室や食堂も利用できている。さらにこれまで取り組んできた囲碁やピアノ、裁縫、図書館通いなど、利用者が入居後も引き続きやりたいことが実現できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う仲間同士で交流しやすい様座席等を配慮したり、又、一緒に作業を行って頂き、活動を共にする事で、利用者同士良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、併設の特養へ移られた方への面会や、家族からの悩みや相談も受け、関係を断ち切らない取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の希望や意向を汲み取り、また、本人が話しやすい場面づくりを行いながら、把握に努めている。また、思いがうまく伝えられない利用者には、本人の表情や行動から汲み取るようにして検討している。	職員は、サービス担当者会議や会議の事前に利用者の思いを聞く機会を確保しているが、日常の暮らしの中でも利用者一人ひとりに向き合っており、行動や会話の中から意向や思いを汲み取ることを積み重ねている。また、利用者が常に思いを職員に申し出られるような雰囲気づくりと言葉かけに努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしぶりを十分に聞いたり、アセスメントシートも活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努め、支援に活かしている。	入居申し込みを受けた際に、利用者・家族から生活歴や医療情報、生活環境、生活習慣等について聞き取りを行っている。在宅サービスを利用していた場合には、居宅のケアマネージャーやサービス事業所から情報を得ている。また、入居後に確認できた情報等は記録に追記して、全職員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、状態を毎日個別の支援経過に記録し、職員間で情報を共有し、必要時カンファレンスを行い、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の暮らしへの意向をよく聞いた上で、職員間でカンファレンスし、本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について検討している。また必要に応じては主治医の意見も取り入れるなど、それぞれの意見が反映され、現状に即した介護計画になっている。	職員の気づきを常に利用者のより良い暮らし方に反映出来るように全職員で共有を図り、検討するように取り組んでいる。3ヶ月毎のモニタリングや半年毎の計画の見直しは、職員の意見を聞きながら計画作成担当者と管理者が主になって行い、介護計画の作成に取り組んでいる。	利用者の暮らしが事業所内で完結するのではなく、地域の中でその人らしいより豊かな暮らしが送れるように、利用者をよく知る人の意見や気づきも反映しながら、多くの関係者が参画しての介護計画の作成により一層取り組んで行くことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に支援経過を記入し、重要な事柄はフロー向日誌に記録して、申し送りにて全職員が情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応できるよう、併設の特養やデイサービス、居宅介護支援事業所等と連携を図りながら、必要とするサービスの提供ができるよう柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の支援をはじめとして、川東文化交流展など様々な地域行事への参加、ボランティアの訪問、消防署立会いの避難訓練など、地域資源を活用しながら、一人ひとりの暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向に添って主治医を決めており、必要に応じて職員が同行し状態報告するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	法人が同敷地内で運営する特別養護老人ホームへの往診医が事業所利用者への往診にも対応してくれる体制にあり、利用者は入居時に医療状況や希望により、これまでのかかりつけ医の継続とを自由に選択することが出来ている。受診は基本的に家族対応であるが、必要な情報は医師・事業所・家族とで常に共有が図られるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりから異変に気づき、状態変化見られる時などは併設の特養看護師や、かかりつけ医の看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談の上、ホームでの支援が可能な状態であれば本人のストレス軽減の為にも、早期退院できるよう医療機関、家族と連携を図って支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援については、入所時に事業所でできることを十分に説明し、本人や家族の意向を確認した上で、意向確認書を作成している。また状態が重度化してきた場合には、速やかに家族、事業所、相談員とで話し合いの場を持ち、文書化して示す事で、併設の特養への転所等、方針を共有しながら支援を行っている。	利用者に医療処置が必要になった場合や重度化した際には、早い段階から利用者・家族の意向を確認し、話し合いを重ねて、併設の特別養護老人ホーム等への住み替えを支援している。利用者にとっては法人内での移動であり、不安が少ない。また、前回の外部評価の結果を踏まえて、重度化した際の事業所の指針を文章化して利用者・家族に示すようにしてより理解が得られるように改善が図られている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時対応の研修に参加し、人形を使っての心肺蘇生の訓練を実施している。また、急変時には特養看護師の支援を得たり、マニュアルも整備されており、急変や事故発生に備え対応できるように取り組んでいる。	全職員が毎日の申し送りや業務日誌の確認により両ユニット18名の利用者の普段の状態を把握しており、異変等に早く気付けるように取り組んでいる。また、特別養護老人ホームの看護師にいつでも相談・対応してもらえる協力体制が作られている。急変時については、施設内実践研修に参加し、確実かつ適切な対応が行えるように技術を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、自治会長より食糧支援や地元消防団の支援が受けられるよう、協力体制ができている。年2回の避難訓練では、地元防災委員の方も緊急連絡網を通じて参加して頂き実施している。又、災害に備え、1日分の非常備蓄食も備えている。	年2回の避難訓練の実施の他、災害別に避難場所や避難方法の確認を行い有事に備えている。敷地内の特別養護老人ホームの協力や自治会を通じた地域住民からの協力が得られるように体制が整備されている。また、職員は通報訓練の実施等を通じて対応力を身に付けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格やこれまでの生き方を尊重し、プライバシーへの配慮を忘れる事無く、誇りやプライドを傷つけない様対応している。	全職員が利用者の誇りやプライバシーについて常に意識をしており、具体的に確認し合っている。利用者の呼び名は利用者一人ひとりの希望に応じて対応し、利用者を理解することで適切な関わりができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表せるような関わり方や言葉かけ、場面作り等を行い、また本人の表情や行動からも汲み取るなど、個々の力に合わせて自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人一人のペースに合わせた対応を心掛け、入浴のタイミングやレクリエーションの内容などにおいても本人の希望に沿ってその日を過ごせる様に支援している。又、行事の参加や外出なども本人の意向を確認し、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容院がある利用者には、本人の希望に添い、支援している。又、日々本人の好みに合わせ、一緒に洋服を選んだり、家族様と連絡を取り、服をお持ち頂くなど、季節に合わせたその人らしい身だしなみ、おしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みやリクエストに応じたメニュー、外食や季節の食材を取り入れ、また、盛り付けなど様々工夫し、食べることへの楽しみを大切にして支援している。また、一人ひとりの力を生かしながら、食事作りや片付けを職員と一緒にやっている。	献立は担当者が法人管理栄養士のアドバイスを得ながら、利用者の希望も反映させて作成している。旬の食材や利用者が畑で育てた野菜も献立に活かして、季節を感じながら食事が出来るように工夫している。利用者は普段から配膳、盛り付け、片付け等に積極的に参加し、その役割も日々の楽しみにつながっている。また、外食やお弁当を持って出かける楽しみや、焼きそば、おはぎ、ちまき、稲荷ずし作り等は職員が利用者教わりながら一緒に作ることで利用者の充実感、生きがいになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を毎日記録し、一人ひとりの健康管理に役立てている。医師の指示等を参考にし、個別の食事量の調整や食事形態、水分確保の為に工夫など、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援している。又、月に一度体重測定を行い、体重の変化に注意し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態や能力に応じて、介助や声掛け、見守りの元で支援し、口腔内の清潔保持に努めている。又、希望に応じて定期的な歯科検診を受けられる様支援し、検診の結果を本人にお伝えする事で、意識して口腔ケアを行って頂ける様支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者一人一人の力や排泄パターンを十分に把握し、定時声掛け誘導、夜間のみポータブルトイレを設置する等、トイレでの排泄をより可能にし、気持ち良く排泄出来る様支援している。また、トイレの表示も分かり易いように工夫し、排泄の自立に向け支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況やその日の体調等を細やかに把握し、適した排泄用品を使用しながらトイレで排泄できるように支援している。また、時間誘導や排泄パターンを把握しながら支援することで、入居時より改善した利用者もあり、排泄について自立している利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の好みを把握した水分補給や、繊維質を多く取り入れた食事、牛乳、ヨーグルトを提供し便秘予防に努めると共に適度な運動や、体操も日常的に支援している。慢性的な便秘の方には、主治医に相談の元、排便パターンに基づき服薬支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のペースで、希望に添った入浴を楽しめる様、タイミングや湯加減等の調整を行い、気の合った仲間と一緒に入浴したり、菖蒲湯・ゆず湯など季節行事も取り入れ、楽しんで頂いている。	入浴日は定めているが、利用者の希望や状況に応じて臨機応変に対応している。浴室内は適所に手すりを設置するなどの安全性も確保しながら、家庭的な造りであり、気の合う利用者同士で入浴することもある。ゆず湯などで季節を感じたり、入浴剤の使用で温泉気分も楽しめるように工夫している。また、利用者にとっては職員とゆっくり話せる時間帯でもあり、楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、自分のペースで日中過ごされ、その時の状況に応じて自ら休息されている。適度な運動や体操、家事作業等、その人に合った作業を提供し、体を動かすことで、夜間の良眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの病気や薬の効能を理解し、医師の指示通り服薬できるよう支援すると共に、日頃より症状の変化や変調の見落としがないよう努めている。又、薬の変更や新しい薬が処方された時は、症状により注意し、変化や変調があった時は速やかに主治医へ報告し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割作りや趣味や楽しみごとが継続できる環境を整えたり、利用者同士協同での作業や作品作りを通じてコミュニケーションも深まり、楽しみの一つとなるなど張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩など日常的に支援したり、地域行事やホームの外出行事、家族との外出など一人ひとりの希望に添いながら、普段行けないような場所にも出かけられるよう支援している。	天気の良い日には事業所周辺の散歩に出かけている。外出行事としては、季節ごとに桜や菖蒲の花見、足湯、弁当持参で行くブドウ狩りなどが定例となっており、利用者の大きな楽しみになっている。全員で外出に出かけることもあるが、家族の協力を得て個別に外出することも多く、また現在、職員と利用者が個別に利用者が希望する場所へゆっくりと出かけることを企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことで安心感を得られることを理解し、本人の希望や力に応じて、支援を行っている。また、本人や家族と話し合い、所持する金額を決めている場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、電話をかけられるよう支援したり、手紙やハガキ、品物が届いた際には、お礼の電話や返事の支援を行って家族や大切な人とのつながりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中心であるダイニングには季節の飾りや、絵や小物、利用者の作品、活動写真などを飾って楽しんで頂き、又、季節の草花や緑を取り入れ、施設内であっても季節を感じて頂ける様になっている。室内は窓も多く、開放的で居心地の良い空間となっている。	共用空間は天井も高く明るく木の温もりが感じられる造りである。干支の作品を初め季節を感じる装飾品やアレンジフラワー、多くの観葉植物により心が和む空間がつくられている。また、畳のスペースは自宅の和室のような造りで、利用者にとっても座って作業をしたり落ち着く場所になっている。トイレの表示や浴室の暖簾、居室入口の飾りなども利用者が混乱なく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中の多くを過ごすダイニングでは、気の合う利用者様同士話しやすいよう席の配置に配慮したり、デイルームやコミュニティルームでは皆様と少し離れて一人静かにソファでゆったりとくつろげる様な空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、自宅で使っていた馴染みの家具や物品、家族写真など思い出の品をそのまま使って頂き、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	居室には洗面台と収納スペースの他は使い慣れた家具等を持ち込んで、これまでの暮らしと混乱がないように設えている。防災カーテンも持ち込みであり、一人ひとりの好みや個性が活かされている。本を読んだり、趣味の手作業や書き物に取り組んだり、写真を眺めたり、自由に居心地良く過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、廊下、トイレ、浴室など手すりが設置されて、安全に移動できるようになっている。個々の居室やトイレ、浴室には見てわかりやすいネームや看板を掲げ、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				